

池干しで外来生物は効率的に駆除できるだろうか

矢部 隆*

ここでは、池干しについて私のささやかな経験と考えを述べます。池干しによる外来種除去について考える材料になれば、と思います。

私の小学生～中学生時代は1970年代でした。小学1年生のときが大阪万博です。日本は高度経済成長期から安定成長期に移行する時期で、貧乏な人もすでに少なくなっていた時代です。道を延ばし、山を崩して団地や工場を造り、池や川はコンクリートやブロックで固め、農薬や化学肥料を使いまくった時代です。しかし幸か不幸か、私は幼稚園年中組から中学1年生にかけては岡山北部の津山市の田舎の牧場(県の酪農試験場)でウシやブタに囲まれて過ごし、中学2年生から高校3年まではもともと実家のある岡山県南の赤磐郡山陽町(現赤磐市)に帰って生活していました。岡山の美作地方と備前地方の風土と生きものが私の自然の原体験、原風景です。

ご存知のように岡山県もため池の多い地域です。昔は県北でも県南でも一つの池については数年(以内)に一度のペースで池干しをしていたはずですが。池干しは当然のことながら非灌漑期の冬に行なわれます。寒いのに大人が池に入って泥だらけになり、大きなコイやフナを岸近くに放っていたのを覚えています。ほとんどは食べるために持ち帰られたようですが、決して重要なタンパク源というわけではなく(もう日本人は十分に金持ちで、みんなスーパーマーケットで買い物をしていました)、冬の珍味といったところでしょう。子供たちは、たびたび大人に叱られながら、池に入っていくと小魚を捕ったりして遊んでいました。ときには私のお気に入りのカメラも見つかることがあり、小学校の飼育場に連れて帰って飼ったりしていました。津山市のカメはすべてクサガメであったことが記憶にあります。池の構造上泥が溜まりやすい場所もあり、深いところでは水を落としても大人の腰までつかるところもありましたが、だいたいは泥も浅く、せいぜい大人のふくらはぎまで沈む程度だったと思います。腕でいえば、深くても肘くらいまで泥に突っ込めば、もう底は固かったはずですが。

その印象もあり、5年くらい前からため池の外来生物の駆除について相談を受けたとき、池を干して片っ端から水生動物を捕りまくり、その中からミシシippアカミミガメやウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニなどの外来動物を除去し、在来種を元に戻すことを提案してきました。

ところが、岡崎や安城や豊田で数カ所の池干しに参加した結果、現在では自分の考えの不完全さに気付かされています。この30年ほどの間と言って良いと思いますが、ため池は昔のように農業用水として手入れがされておらず、放置されてきました。その結果池の底には大量の泥が堆積していたのです。数アール程度のそれほど大きくない池でも腰までズブズブ浸かってしまうほど泥が溜まっています(写真1)。全くの誤算でした。

* 愛知学泉大学コミュニティ政策学部 (〒444-8520 愛知県豊田市舳越町上川成 28)

酸素欠乏に弱いバスとギルは、池干しにより根絶に近い状態にすることがおそらくできるでしょう。現実には、そのようにしてバスギルを完全に取り除いた池もあります。しかし、外来在来を問わず、カメの完全捕獲は絶対に無理です。水温が低ければ、越冬状態で池の泥深く潜り、人間によるため池の攪乱をやり過ごすことができるし、多少暖かければ歩いて他の場所に逃げていきます。ウシガエルも無理だと思われます。成体も幼体（オタマジャクシ）も泥に潜っているでしょう。カムルチーも同様です。アメリカザリガニも池干しで減らせる量は微々たるものだし、残った個体が次のシーズンには速やかに増えると思われます。コイやヘラブナは、大きい個体なら何とか捕れるのでしょうか？

ただ私は池干しを否定しているわけではなく、池の満水時に岸やボートから生物採集をするよりも、種類数も個体数も多く生物を採集することができ、より正確に池の生物相を推定できるのは間違いないと思います。

一度、水生の外来生物について池干しでどの程度駆除できそうなのか、そして在来生物について池干しがどの程度のダメージを与えてしまうのか、チェックしておく必要があります。皆さんで意見を出し合って、一覧表を作ると良いと思います。その表により池干しによる外来生物除去の効果と在来生物への悪影響とのバランスを予測し、外来生物駆除のために池干しをすべきか、控えるべきかの意志決定をすればよいでしょう。

市街地のため池は外来種天国ですから、在来種のハビタットを確保するためにも、池干しをして外来生物、そして溜まった泥やゴミを除去することの効果は高いと思われます。

一方里地や里山のため池には多くの在来種が残っていると思われるので、慎重な判断が必要不可欠です。

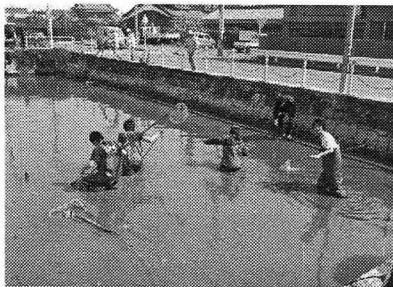


写真1. 手入れをしていない池では、水底に泥が厚く溜まってしまふ。足の長い現代っ子ですら、股の辺りまで泥に潜ってしまっている。2007年4月12日。愛知県安城市本證寺内堀で、排水した後の状況。野呂達哉氏提供。

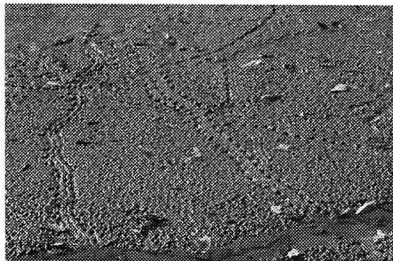


写真2. 池を干したときに、現れた水底の泥の上に残されたカメの足跡。2006年12月16日。愛知県豊田市寺部池。